

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [金沢市立小坂小学校] 担当教諭名 [山口 眞希] (6年3組 31名)

交流相手国 [インドネシア]

海外学校名 [SDN Bubutan IV] 担当教諭名 [Zuhriyah]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	世界の人とかかわりながら生き方を考えよう	28
	英語	Our Town	2

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Save our earth
絵に込めたメッセージ	美しい地球、自分たちの国の素晴らしい自然環境を自分たちの手で守ってほしいという思いを込めて描いた。虹は両国をつなぐ架け橋で、その上に日本は環境に配慮した最新の北陸新幹線、インドネシアは空気を汚さない伝統的な乗り物を描いている。みんなで手をつなぎ、地球を守る様子を表している。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市は数年前から週1回、教科として英語の授業を行っているが、英語学習への意欲・必要感が大変高まった。 ・フォーラム担当、インドネシア情報担当、壁画デザイン担当など一人一役の仕事を分担したことで主体的な活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校の忙しい時期にはなかなか連絡がとれず苦労した。 ・はじめての参加で1年間の見通しが十分に持ていなかった。子どもたちがもっと力をつけられるように見通しを持って活動を組むことができたよかったです。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・いつてみたい国や好きな国の質問に対し「インドネシア」と書く児童が多くなった。 ・文化や生活習慣の違いや共通点を知って驚きが大きかったので、「もっと他の国のことも知りたい」という気持ちを持った児童がほとんどであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、英語を使って文を書くことや話すことに抵抗があったが、拙い英語でも伝わるとうれしくなりもっとコミュニケーションをとりたいと思うようになった。 ・どうやったら子どもたちが主体的に活動できるかを考えるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	・自己紹介カードを書いてデータ化し、相手校に送信する。	・英語の時間に教わった単語やフレーズを使って考えていた。	総合2
テーマ学習	6月 7月 9月 10月	・7月は「インドネシアについて知ろう」のめあてのもと、8つのテーマ別に調べ学習をして、デジタルリーフレットにまとめた。発表会をして情報を共有した。 ・日本の文化を紹介するビデオを作成し送った。	・「食」「学校生活」「流行」「名所」など8つのテーマについて特ダネを伝えようと、本やインターネットを活用して調べることができた。発表会をすることでインドネシアへの関心を深めていた。 ・紹介したい日本の文化を選ぶことを通して日本の良さを再認識していた。	総合12 英語2
構図決定	11月 12月	・共同壁画制作に向け、壁画デザイン担当がテーマ案を学級全体に募集。3つに絞る。 ・スカイプ会議で自分の特技披露、互いの校歌披露をし、壁画デザインの詳細を相談。決定した。	・スカイプ会議をして、実際に相手の顔を見て話げできたことで、相手への親しみを増していた。また、自分が話した英語に対し「I like it!」「Wow!」といった反応が返ってくると「通じた!」ととても喜んでいていた。	総合5
壁画制作	12月	・壁画デザイン担当が下書きを作成。配色案を検討し、決定する。 ・グループに分かれて、全員で色を塗る。	・壁画デザイン担当がしっかり配色を考えていたので、スムーズに色塗りができた。全員で塗ったので完成した時の達成感が大きかった。	総合7
鑑賞・振り返り	2月	・作品開封式を行う。 ・作品とともに記念撮影。授業参観日から卒業式まで廊下に掲示。 ・活動の振り返り。	・開封し広げると、思った以上にきれいでできていて賞賛の声があがった。相手校が自分たちの絵にうまくつなげて描いてくれたことを喜んでいていた。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	31人、一人一人違う文化を紹介したが、紹介したくなる文化や物がこんなにたくさんあることで日本のよさを再発見していた。
異文化の理解	A	5	振り返りの記録から、自分たちとの違いを知って「おもしろいな。もっと知りたい!」という思いを持っている子がほとんどであった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	交流校とのつながりを深めるために、英語の時間に習ったフレーズを生かしてコミュニケーションをとることができた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	インターネットや図書資料を活用して、デジタルリーフレットを作成して発表したり、ビデオを作成して交流校に送ることができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	交流校との関わりを深めるために、どんなことをしたらよいかみんなアイデアを出し合うことができた。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	それぞれの係同士、協力しながら活動していた。全員で決めたり作業したりする場面でも、みんなで意見を出し合い進めていた。
学習を追究する意欲	A	4	「インドネシアの子どもたちに日本を知ってほしい」という気持ちを持続することができた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	3	「環境」をテーマに、地球や北陸新幹線にメッセージをかき入れたり、未来に残したい日本の風景を工夫して描いたりしていた。
作品を鑑賞する力	B	3	自分たちの思いをくみとり、交流校が見事に絵をつなげて描いてくれたことに感動し、感謝の思いを持つことができた。